

SSS035-14

会場:国際会議室

時間:5月24日 09:45-10:00

高知県土佐清水市域での宝永地震(1707)の津波浸水高 Tsunami inundation heights of the 1707 Hoei Earthquake in Tosashimizu city, Kochi pre- fecture, Shikoku, Japan

都司 嘉宣^{1*}, 今井健太郎², 行谷佑一³, 岩瀬浩之⁴, 原 伸彦⁴, 田中 聡⁴, 今村文彦²

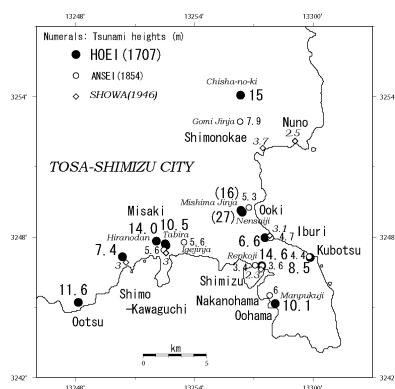
Yoshinobu Tsuji^{1*}, Kentaro Imai², Yuichi Namegaya³, Hiroyuki Iwase⁴, Nobuhiko Hara⁴, Satoshi Tanaka⁴, Fumihiko Imamura²

¹ 東大地震研, ² 東北大災害制御研究センター, ³ 産業技術総合研究所, ⁴ (株) エコー

¹ Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, ² Disaster Control Res. C., Tohoku Univ., ³ AIST, ⁴ Echo Co. Ltd.

宝永4年10月4日(1707年10月28日)に、東海沖、及び南海沖の巨大地震を合わせた震源域で発生した、連動型巨大地震である宝永地震の津波は、それから147年後に起きた安政南海地震(1854)のそれよりいちだんと規模が大きかったことは従来知られてきたが、古文書の記載、地元伝承に基づいて信頼するに足る浸水標高が測定された例は多くはなかった。われわれは、現地で具体的な津波浸水の目標物を測器で測定して得られた津波高さのデータを一つでも多く獲得することを重視した。本研究では、高知県土佐清水市の市域内で、宝永津波の津波浸水限界に関する記録のある九カ所の集落について、津波浸水標高に関する調査を行った。古文書に記録された小字地名を現在地図上に照合する作業に関しては、土佐清水市立図書館の各位や、各集落の多くの人々の御教示を得た。

その結果を図にしめす。図においてに太字で示したのが宝永、に字で示したのは安政南海、印に斜体字で示したのが昭和南海地震の、津波浸水標高(m)である。下の加江、大岐、清水、三崎の4カ所で津波の浸水高さが15m近かったことがあらたに判明した。また、大浜、大津の2点でも浸水高さは10mを越えていたことが判明した。図には、羽鳥(1981)、村上ら(1996)によって得られた、安政南海地震津波の浸水高さと、海上保安庁水路部(水路要報、1947)による昭和南海地震の津波浸水標高を記して置いたが、宝永地震津波が、この後年の2回の南海地震の津波に比べて非常に大きな浸水高さを示していることに注目すべきである。



キーワード: 宝永地震, 連動型巨大地震, 歴史地震, 津波, 四国

Keywords: the 1707 Hoei Earthquake, joint gigantic earthquake, historical earthquake, tsunami, Shikoku